

平成 25 年度第 2 回

まちづくりふれあいミーティング 質疑応答

市民：

創年セミナーは市民の感心が非常に高く人気の講座であるが、先着 40 名との制限がある。以前に申し込んだが受講できず、新しい人が申し込みにくくなっている。先着順ではなく、申し込み期間を定め、初めての方を優先したり、抽選にしたり、申込者に希望動機のレポートを提出させて選考するというような対策を立ててほしい。また、セミナー受講者から新たな地域のリーダーとなり得る人材の発掘につながる方法を検討いただけないか。

市：

創年セミナーは多数の応募があること、受講生の決定方法について課題があることも承知している。課題の解消について、次年度に向けて検討しているが、基本的には広く市民に参加いただけるよう体制を図っていきたい。

市民：

具体的にはどのように？

市：

まだ具体的な方向性は見えていないが、例えば、バス移動を要する講座であると定員が制限されるので、講義形式で広い会場で開催する方法等が考えられる。そのような方法も踏まえ、募集のあり方も考えていきたいと思う。また、受講回数が浅い方については、配慮は必要であると考えている。

市民：

富里市の人口が減っていることについてどう思うか？

市：

羽田空港の国際化により、成田空港から関係者が羽田へ移ったことが人口が減った原因のひとつかと思う。この問題については、知事にも考えてもらうようお願いしている。残念ながら、成田空港周辺のインフラ整備の遅れや富里に駅がないこと等が人口増に歯止めをかけているという問題はあるが、福祉施策の充実等の対策を図っていききたいと考えている。

市民：

農業後継者が少なくなっていると思うが、どのようにお考えか？

市：

毎年、富里では10人～15人以上の新規就農者がおり、近隣では一番多い。大消費地である東京に近いので、販売するために適した場所であること、土地も平らで自然災害が少ない地形であるため、農業に向いている地域である。富里市は基盤産業が農業なので、奨励金の制度等により農業保護を行っていききたい。

市民：

前回のミーティングで、道の駅の構想は練られていることはお聞きしたが、決定はしていないとのことだった。決定権は市長にあると聞いているが、どのようにお考えか？

市：

政策の最終的な判断をするのは、もちろん市長である私ですが、道の駅という大規模な事業の場合、必ず市民に聞いて決定する。道の駅は、国道沿いであること、トイレや食堂の設置等いろいろな条件があるので、今後検討を進めていく。

市民：

岩崎邸のボランティア等の活動をしているが、岩崎邸の公開については、次年度以降どのようなスケジュールで、どのようなことをする予定かを伺いたい。そこから、ボランティアとしてどのようなことができるか、別の角度からお手伝いができるかと思う。

市：

昨年末に国の登録有形文化財として登録がされたため、これからは国の費用等も入れながら整備できるものと考えている。今年度は隣接地との境界を確定し、竹の伐採がメインの活動であった。これからは傷んでいる箇所調査と修復状況をしなければならない。もちろん、早く進めたいという考えはあるが、計画等がはっきりしてから皆さんにお知らせすることになる。

市民：

いつまでに何をしなければならないというのは決まっていないのか。

市：

ご意見のとおり、計画、設計、工事、それから公開となるが、やっと有形文化財に認められたところなので、基本計画については、来年度以降に計画する予定。

市民：

先日、市から健康状態、介護になった時はどうしますか等の高齢者向けのアンケートが届いた。今後、介護を受ける方が多くなり、行政だけでの対応でなく、近所での助け合いが必要だと言われているが、それより前に介護にならないための予防と

して市ではどのようなことをしているのか？また、どのように考えているかお聞きしたい。

市：

富里市の高齢者の人口は5万人のうち1万人が65歳以上。27年度から始まる介護保険料の金額や、どのようなサービスが必要かを把握するために、アンケート調査をしている。介護にならないための予防については、高齢者福祉課と保健センターが主体となり、高齢者の方を募って健康事業を行っている。

市民：

そのような事業についてのお知らせはしているのか。私にはお知らせは届いたことがないので。

市：

詳しいことについては担当課から御連絡します。

市民：

夫が老人性うつで軽い認知症で、本人は、デイサービスは自分には必要ないし、まだ行くべきではないと思っている。本人はまだ仕事ができると思っているので、ボランティアにお手伝いいただきながらでも、就労できる、作業できる、そんな場所を提供していただけないか。

市：

障がい者支援のサービスについては、担当課に相談いただきたい。

市民：

すでに介護認定をされ、相談には行った。すぐにどうして欲しいということではなく、他にも同じような悩み抱えた人が沢山いるのではないかと思う。そのために家族が出かけられないし、夫婦二人で閉じこもってしまう。これから先々、それを防いで欲しい。

市：

ご意見として承る。何かあれば相談いただきたい。

市民：

参加している皆さんの意見を聞いて、自分も高齢者となってまわりに迷惑をかけることになるかもしれないと感じた。高齢者が増える中で、退職後に家に閉じこもってしまう人も多いようだが、富里のまちづくりでどのように関わられるかを考えるべきである。先日サポートセンターの講座を受けたが、高齢化に対する意見を公募するなどして活かしていけないか。

市：

高齢化は日本が抱える非常に大きな問題であることは確かである。65歳で定年としている会社もある。将来どうしたらよいのか、個人的に悩まれる方も多いのではないかと。新しい保健センターの中にサポートセンターを作る計画があるので、皆さんでどのようにしたらいいかを話し合い、提案していただきたい。

市民：

既にユーカーが丘で実施されているが、一戸建ては維持管理が大変であるので、一戸建てに住んでいる独居老人はマンションに住みかえてもらおう。そこに輪ができ、同じような年代で話もでき、同じような困りごとでも話し合いってもらおう。空いた一戸建てを若い人、子育て世代に安い家賃で住んでもらおう。人口の問題にも効果的であって、市の活性化につながるのではないかと。また市外からの転入者も見込めるのではないかと。

市：

参考にして勉強したいと思う。

市民：

成田空港が近いということで市の資源となっている。日本に来る観光客が、今年は1,000万人を超え、来年は2,000万人を目標にするということから、その何割かの人が富里に来れば、経済的には良くなるのではないかと。オリンピックまでは続くのではないかと。話題になった「おもてなし」をヒントに「おもてなし館」を作り、観光客が来なければ損というくらいの施設にしたらいいのではないかと。そこから更に商業施設を発展させていくというのはどうか。

市：

成田空港は発着回数が増えたため、お客さんの数は増えているそうです。先日、富里の里山が非常にきれいで度々訪れますといった手紙をいただいた。富里の景色、岩崎邸、新たな道路も完成するので、これらを活かし、成田空港を利用される皆様にお寄りいただけるようにしたい。

市民：

市長はやらなければならないことが沢山あると思いますが、これから先、一番やりたいことは何でしょうか。

市：

一番したいものは選挙の公約に掲げたことなので、市民の皆さんと議会の協力、職員の努力によって平成27年度中に完成する。したがって、約束を完成させることが今一番やりたいこと。

市民：

岩崎邸をどう活用するか、いろいろな方法があると思います。専門家だけでなく、市民の声も十分に反映させながら、国際都市としてふさわしい活用をお願いしたい。前回のミーティングでも申しましたが、時代村を作って撮影等で使ってもらえるのはどうか。近くには宿泊施設、国際空港、駅もあってアクセスも良く、非常に使いやすいという条件はそろっている所です。単なる史料館では、負担が増えるだけなので反対。アクティブな活用の中で、経済効果や雇用につながる形で策定し、興味関心のある方やボランティアの方等、いろいろな方の意見を集約し、活かしてほしい。

市：

国の補助金にはいろいろな縛りがあり、専門家に相談すべきことはあるが、専門家だけで将来の計画を決めるというわけではない。もちろん市民の皆さんの意見を取り入れていこうと思っている。

市民：

洗心小学校と浩養小学校の児童数が減っていると聞いた。そこで富里南小学校と統合を検討するのはいかがか。反対意見もあると思うし、難しい問題が沢山あると思う。以前に小規模な学校で教鞭を執っていたことがあるが、小さな規模で子どもを守ることが、必ずしも教育的であるとは言えず、規模の大きい学校ではいろいろな人がいるんだということが学べる。教育費も削減できるのではないか。地域の方にもご理解いただき、跡地にはいろいろな世代間のコミュニティがもてるような場所にしていくことが現実的ではないかと思う。

市：

洗心小学校と浩養小学校は小規模化が進んでいる状況である。現在、教育委員会ではよりよい教育環境を整えていくため、学校適正配置検討委員会を設置し、議論をしている。第5回目を2月20日に行う予定で、第3回目までの内容についてはホームページでご覧いただける。

市民：

自治会内の集中浄化槽について、自治会費の他に集中浄化槽の管理費もかかっており、非常に大きい額を扱うために管理に時間を取られ、他の活動に力を入れられないのが現状。協働のまちづくりに力を入れたいならば、環境整備ということも非常に大事だと思う。例えば集中浄化槽を市で管理をすれば安全性も増し、自治会は他の部分に力を注げるのではないか。

市：

ひとつでも多く下水道に流したいと取り組んでいる。しかし、時間がかかっていることは事実である。全てにおいては不可能なので、もう少しお待ちいただきたい。下水道につなげる場所は決まってきたが、つなげられない場所もある。それをどう対応するかについても検討しなければならない。

市民：

ふれあいミーティングは、まちづくりを推進する核となる人達である区長、自治会長、民生委員等がまちづくりを知らないと話が進まないのでは、半強制的に参加させるべき。

市：

ご意見として承る。

市民：

最近介護士の資格をとった人が、新たな職場を求めて富里市の社会福祉センターに相談に行ったところ、歓迎されていない感じだったとのこと。その後、他市町村にも相談に行ったところ、丁寧な対応だったものの、実際に紹介された施設では掃除だけを頼まれ、何かあっては困るからなのか責任ある仕事を任せてもらえなかった。指導をしてもらいながらも、資格を活かして仕事をしたかったと言っていた。その他に、008号線の通学路、通行者の安全確保について最良の解決策をお願いしたい。

市：

ご意見として承る。

市民：

福祉関係の講習等に参加すると、ボランティアや区長会、民生委員、社会福祉協議会といった団体間でのネットワークの構築が必要だと感じる。各団体で取り組みは活発に行われてはいるが、一体感がない気がする。そのような計画があるのかどうかをお聞きしたい。

市：

現在、福祉関係ではシルバークラブや子育て支援センター等の活動は個々に行い、必要な際に連絡を取り合っているが、総合的なネットワークとなると今後の検討課題となる。

市民：

国の推進事業のモデルを募集したところ、柏市が手を挙げ、福祉事業について、市と大学と住宅公社が連携し取り組んでいる。富里も良いところを真似したらどうか。

市：

柏市の事業については、先進地ということで学んでいきたい。

市民：

「公園管理員」というものを市が委嘱してはどうか。委員がゴミを拾ったり、子どもの危ない遊びを注意したり、また、非行のような行為について警察に連絡をした

りといった活動をすることによって、児童公園の健全な活用につながるのではないか。ボランティアとして、また、シニアの活躍場所として誇りをもって取り組めると思う。

市：

公園の清掃については、自治会にお願いしている。ご提案いただいた公園管理員については、今後の課題としたい。